

サッカーに関する社会学的研究の動向

——邦文・英文論文を対象にして——

杉山 進

Trends of Studies in Sport Sociology on Soccer

Susumu Sugiyama

Abstract

In this paper the present author tried to clarify the research trends in sport sociology whose main theme was soccer. Materials used were the total of 32 original papers, in which 19 papers were written in Japanese and 13 were in English. Each paper was examined and analyzed in terms of its objects observed, general method applied, area of concerns in sociological study, specific technique used and groups observed. Following trends were said to be observable.

1. In the Japanese papers it was found that most of the studies approached to their objects in term of social psychology using questionnaires and that more than half of them treated groups of players.

2. In the English language papers it was a distinguished feature that four out of 13 papers applied historical approach, analyzed the relationship between soccer and society/culture, and used historical documents as their source materials.

3. In general, it could be said that present sociological studies on soccer might not yet be on a theory-making stage but still on a data-collecting one; this was especially true in Japan.

Year	Author	Title	Language
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000

サッカーに関する社会学的研究の動向 —邦文・英文論文を対象にして—

I. 目 的

体育社会学あるいはスポーツ社会学における研究動向についての論文や報告には、「体育における社会学的研究の動向¹⁾」、「体育社会学専門分科会の研究動向²⁾」、「体育社会学研究の20年³⁾」、「スポーツ社会学の研究系譜⁴⁾」、「The Sociological Research Work of Sport in Japan⁵⁾」、「Past, Present and Future Perspectives for Research in Sport Sociology⁶⁾」がある。しかし、個別スポーツ種目に関する社会的な研究動向についての研究はみられない。

本稿での研究目的は、邦文論文と英文論文を対象に、サッカーに関する社会学的研究を整理し、研究の動向を明らかにすることである。

このような研究は、研究の性格上実践的目標を伴うが、ここでのそれは、日本での今後のサッカーに関する社会学的研究の発展に役立てたいとの願いをもつものである。さらに、この実践的目

標の意義、つまり、特定スポーツ種目の社会学的研究の発展にはどのような意義があるのかについては、次のことだけを述べておく。本研究では、サッカーを取り上げたが、ある特定のスポーツ種目に関する社会学的研究の発展は、そのスポーツの社会的性格、例えば、サッカーによる個人の社会化の特性、サッカーと文化・社会との関連特性、サッカー集団の機能特性などを明らかにすることになるであろうということである。しかし、そのためには、当然他種目との比較検討が必要であり、今後の研究課題でもある。(以後、邦文論文は和論文、英文論文は英論文に各々略す。)

II. 方 法

なんらかの方法でサッカーを扱った社会学的な研究論文を収集し、1. 出典別、2. 研究対象別、3. 研究領域別、4. 研究方法と調査技術別、4. 調査対象者別に分類して表に示し、和論文と英論文を比較しながら研究動向を考察した。

論文収集は次の手順で行なった。

1. 論文検索の対象文献として、体育学研究、日

表1. 論文検索の対象論文

文 献	発 行 機 関	号、巻、回大会	年 度	備 考
体育学研究	日本体育学会	1-26	1951-81	
日本体育学会大会号	日本体育学会大会主催機関	22-33	1971-82	
紀 要	東京大学教養学部	1-16	1960-82	
	東京学芸大学	21-34	1970-82	脱, 30
	東京教育大学	9-16	1970-77	
	筑波大学	1-5	1978-82	
	群馬大学教育学部	9-17	1978-81	
	日本体育大学	6-8	1977-79	
	日本大学文理学部	12-16	1978-82	
	早稲田大学	2-14	1970-82	
	国学院大学	5-14	1973-82	
	東京女子体育大学	2-17	1967-82	脱, 4, 5
	順天堂大学	2-16, 24	1959-73, 81	脱, 3, 4, 5, 8, 14
	慶応義塾大学	13-21	1973-81	
	国士館大学	2-8	1975-82	
	東海大学	5-11	1973-82	脱, 4, 7
	専修大学	1-6	1971-79	
	静岡大学教養部		1977-81	
	中京大学	6-23	1964-82	脱, 7, 10, 12
	京都教育大学	8-12	1973-78	
	大阪体育大学	1-13	1969-82	
	奈良教育大学	22-31	1973-82	
天理大学		1973-82	脱, 74	
徳島大学教養学部	7-15	1973-82		
愛媛大学教育学部	4-5	1980-82		
福岡大学	1-8, 23, 24	1970-74, 82		
I. R. S. S.	I. C. S. S.	2-14	1967-79	
Sport DOKUMENTATION	Bundesinstitut für Sportwissenschaft, Köln		1975-82	英論文のみ収集対象